

事例13

< 事例概要 >

・ 70 歳代、拡張型心筋症、房室ブロック、慢性心不全の患者。左室機能低下あり。BMI 24.0 kg/m²。

・ 拡張型心筋症、房室ブロックによる心不全に対し昇圧剤投与中で、アブレーション後に心臓再同期ペースメーカー植込み予定だった。発症後約 1 週間の発作性心房細動、心房頻拍に対し、高周波電極カテーテル、イリゲーション電極カテーテルを使用しアブレーションを実施した。

・ 右大腿動脈、左鎖骨下静脈にシースを挿入し、アブレーション治療を実施した。操作終了後、心臓超音波検査で心嚢液貯留が少量であることを確認した。

・ 帰室時に徐脈、側腹部痛を認めた。帰室 1 時間後、血圧低下に対し昇圧剤を増量した。帰室 8 時間後に背部から側腹部の疼痛、不安感、呼吸促迫、経皮的動脈血酸素飽和度 (SpO₂) 低下を認め、酸素投与を開始した。帰室 13 時間後の血液検査で腎機能悪化を認め、帰室 17 時間後に心停止となった。全身CT検査で腹腔内出血を認め、下大静脈造影検査を実施したが、治療 2 日後に死亡した。

・ 死因は、腹腔内出血（出血部位不明）、出血性ショック。解剖有、死亡時画像診断 (Ai) 無。